

豊二校だより

学力調査特別号

令和4年(2022年)10月28日 No. 8

吹田市立豊津第二小学校

吹田市江坂町2丁目5番1号

Tel.6386-0861 FAX6386-8743

<http://www2.suita.ed.jp/school/es/16-toyo2/>

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として『令和4年度全国学力・学習状況調査』を実施し、8月末に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析 (△…上回っているもの ▼…下回っているもの ◇…同じもの)

●国語 (14問 45分)

《概要》 本校児童の正答率は、全国値をやや上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

聞くこと 話すこと	△必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることでは、全国値をやや上回る。 ▼互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることでは、全国値をやや下回る。
書くこと	▼文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることについては、全国値をやや下回る。 ▼文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることについては、全国値をやや下回る。
読むこと	△人物像や物語の全体像を具体的に想像することについては、全国値を上回る。 △表現の効果を考えることについては、全国値を上回る。
言語の特徴や使い方が国の言語文化に関する事項	△言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることについては、全国値をやや上回る。 ▼話し言葉と書き言葉との違いを理解することについては、全国値をやや下回る。

国語科における成果と今後の改善点について

研究主題にある「自分の考えを伝え合い、学び合う子どもたちの育成」の成果をみることができます。教科書の叙述に基づいて自分の考えを形成していく授業づくりや、自分の考えを書くこと、語彙の活用に関してさらに子どもたちに力がつく授業研究を行っていきます。話し合い活動を取り入れ、相手のことを意識して聞き、自分の考えをまとめて話すことができるよう学習活動を工夫します。

そして朝の読書タイムや学校図書館の取り組みから、読書に親しむ子どもたちの育成を目指します。また朝学習での語彙力形成の取り組みや、辞書引きを通して、語句の意味理解を深めさせることに取り組んでいきます。

●算数（16問 45分）

《概要》 本校児童の正答率は、全国値を上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

数と計算	△最小公倍数を計算することや問題に合った切り捨での立式を考えることについては、全国値を上回る。 △表の空欄に合う数字の計算や、表の数字からどの遊びを選択すると良いのか等、表の読み取りが、全国値を上回る。
図形	△もともとある正方形のプログラムから、図形を構成する要素に着目し正三角形・ひし形をかくプログラムへと書き直していく課題は、全国値を上回る。
変化と関係	△果汁入りの飲料水にかかわる問題において、含まれた果汁の量を求めることや飲料水の量が変化してもその割合が変わらないことへの理解は、全国値を上回る。 ▼百分率で示された割合を分数で表すことについては、全国値を下回る。
データの活用	△分類されたデータをもとに目的に応じてデータの特徴を捉えて、考察することにおいては、全国値を上回る。 ▼目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る点においては全国値をやや下回る。

算数科における成果と今後の改善点について

これまでの少人数指導における習熟度別に分割された授業形態や、担任と算数専科の二人で行う team teaching での授業形態での成果がみられます。また、朝学習での算数タイム、放課後に行っている学保タイムの継続も今回の結果からみる成果と考えられます。一方、全国値と比べると無解答率は低いです。記述式の問題形式や時間が足りず問題後半での無解答率が高くなっています。

算数科の授業では、限られた時間の中で、問題への見通しをもち、自分の考えを図、式、言葉などで表現し、交流活動の中で自分の考えを練り上げることで自力解決できるよう、今後も指導を続けていきます。また、日々の授業の中で振り返りの時間を充実させ、自分の考えを算数的な要素を含んだ言葉で言語化することも大切にし、指導していきます。加えて、授業以外の学習活動である、算数タイムや学保タイムも充実した活動になるよう努めていきます。

●理科（17問 45分）

《概要》 本校児童の正答率は、全体として全国値をやや上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

エネルギー	△三角鏡で跳ね返した日光の位置が変化していることをもとに、実験方法を見直し、新たに追加した手順を書くことで、自分の考えを持つ問題は、全国値を上回る。 △缶の色と水の温度変化との関係についての実験で得た結果を分析して解釈し、具体値や分析した内容に基づいて結論の根拠を記述することは、全国値を上回る。 ▼重ねた日光と的の温度についての問題を的確に把握し、問題解決するために必要な結果を適切に記録したものを選択することは、全国値をやや下回る。
-------	--

粒子	<p>△一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く問題において、全国値を上回る。</p> <p>△メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで水を加える問題において、全国値を上回る。</p> <p>△水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ出題では、全国値をやや上回る。</p> <p>△砂糖を凍らせたという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問いを見出す問題では、全国値を上回る。</p>
生命	<p>△ナナホシテントウに関する問題を基に、観察記録が誰のものであるか選ぶ問題において全国値をやや上回る。</p> <p>△自分の観察記録と、他者の観察記録に追加された情報をもとに、問題に対するまとめを見直す出題において、全国値をやや上回る。</p> <p>▼ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明する問題において、全国値をやや下回る。</p>
地球	<p>△夜の気温の変化について記録の結果を表したグラフを見通す問題において、全国値を上回る。</p> <p>△冬の数日間の天気と整理した資料を分析して解釈し、冬の晴れた夜を示す問題において、全国値を上回る。</p> <p>▼鉄棒に付着した水滴と氷の粒は何が変化したかを問う問題において、全国値を下回る。</p>

理科における成果と今後の改善点について

全体として、全国値をやや上回り、日々の授業における積み上げをうかがうことができます。しかしながら、基本的な用語や知識の定着に課題があると思われます。友達と互いに説明させる活動、思考ツールを駆使し多様な知識へと広げる活動、ふりかえりから学習の定着を自ら判断する機会の確保、小テストを行って基本的学習知識の定着をはかる等、授業展開の工夫に努めます。

さらに、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠がタブレットを使ってクラス全体に共有される活動も多く、授業では論理性を養うため、問題→予想→計画、実験→結果→考察という一連の流れで授業展開するよう心がけています。その成果として無解答率がはなはだ低いことにも表れています。自分なりの考えを周りと共に共有する授業を今後も展開していきます。

2. 児童アンケートに関する調査結果の分析

授業等学校生活に対する意識	国語について	<p>△国語の勉強は好きと答えた児童は、全国値をやや上回る。</p> <p>▼国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと答えた児童は、全国値を下回る。</p>
	算数について	<p>△授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると答えた児童は、全国値を上回る。</p> <p>▼授業が好きだと答えた児童は、全国値をやや下回る。</p>
	理科について	<p>△授業で、観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考えていると答えた児童は、全国値をやや上回る。</p> <p>▼将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うと答えた児童は、全国値を下回る。</p> <p>▼授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていると答えた児童は、全国値を下回る。</p>
	その他	<p>△学校で、授業中に自分で調べる場面や、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使っていると答えた児童は、全国値を上回る。</p> <p>▼学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた児童、は全国値を下回る。</p>

家庭や地域での生活に対する意識	<p>△携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていると答えた児童は、全国値を上回る。</p> <p>△普段、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）を3～4時間以上していると答えた児童は、全国値を上回る。</p> <p>▼あなたの家には、およそどれくらい本があるかについて（雑誌、新聞、教科書は除く）、全国値を下回る。</p>
自己肯定感に関する意識	<p>△自分には良いところはあると答えた児童は、全国値をやや上回る。</p> <p>△自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると答えた児童は、全国値をやや上回る。</p> <p>▼将来の夢を持っていると答えた児童は、全国値を下回る。</p> <p>▼難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していると答えた児童は、全国値を下回る。</p>

3. 今後の取り組み

本校では、2018年度よりコミュニケーション力の向上を目指して、国語科の授業研究に取り組んでいます。以前より取り組んできた本校の研究主題「自ら考え、表現し、伝え合う子どもの育成《思考ツールを活用しながら学び合う児童の育成を目指した物語文指導》」をより進めるため、自分の考えをまとめ表現し、友達の意見を聞いて考えを練り上げていく主体的な学習活動を多く取り入れていきます。また、学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫、研究を一層進めていきます。さらに、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、児童の自己肯定感を高め、自立と幅広い学習の機会をつくるため、次のように取り組みを進めます。

【学力向上について】

- ・自分の感想や考えをもち、それらを広げたり、深めたり、表現したりできるよう、豊津西中ブロックで取り組んでいる「思考ツール」の活用を引き続き日々の授業に取り入れていきます。また、学習のスタンダードである「めじつたふ」（めあて・自分の考え・伝え合い・確かめる・振り返り）を大切に、児童の意欲を高める授業づくりを進めます。
- ・児童に一人一台導入された SUN ネット端末（iPad）やプロジェクタ等の ICT 機器を効果的に活用し、さらなる学習の意欲向上と、理解力向上へつながる授業の研究と実践に取り組んでいきます。

【授業規律・生活規律について】

- ・生活目標については、毎月の集会で確認し、ふり返りカードを使って一人ひとりが目標を振り返るなど意識を高め、よりよい行動につなげる機会を今後も大切にしていきます。
- ・携帯電話やスマートフォン等の使用方法や、正しい SNS の使い方、情報モラルなどを、引き続きデジタルシティズンシップ（DC）教育を通して指導していきます。

【仲間づくりについて】

- ・あすなる活動（異学年集団における活動）を通して、学校全体の豊かな仲間関係を作り、思いやりの心を育てるとともに、リーダーとしての自覚や責任感を育て、自己肯定感を高めていきます。

【規則正しい生活習慣について】

- ・普段テレビゲームを3～4時間以上していると答えた児童は、全国値より上回っており、生活習慣の乱れが進んでいることが懸念される結果でした。毎年、本校児童に実施している「生活習慣調べ」では、「ゲームやインターネットをしている時間は、何時間くらいですか。」という項目を設け、児童の生活面の把握にも努めました。結果の把握は、今後の指導に役立てていきます。これからも引き続き、児童が自分の生活習慣だけでなく心の健康にも目を向け、心身ともに健康に過ごせるよう指導に取り組むとともに、保護者への情報発信等にも取り組んでいくよう努めます。